

自ら考え、進んで健康づくりに取り組み、

生活に生かす南部っ子の育成を目指して

佐賀県多久市立南部小学校

7学級 115名

1 研究の目標やねらい

(1) 研究の目標

「歯・口の健康づくり」に係る実践を積み重ねることで、自分の健康に関心を持ち、健康的な生活を送ることができる児童の育成をめざし、有効な手だてを見いだす。

(2) 重点事項

- ① 児童の意識化・実践化を図る学習活動を構築する。
- ② 児童の意識化・実践化を図る日常活動の工夫を図る。
- ③ 児童・家庭・地域の意識化・実践化を図る連携の在り方を見いだす。

2 実施した主な活動

(1) 児童の意識化・実践化を図る学習活動

① 目標一覧表と「年間指導計画」の作成及び学習過程の構築

ア 「むし歯・口の病気予防」「歯みがき」「食生活」「姿勢」について、昨年度の実績をもとに低・中・高の発達段階を考えて、系統性のある目標一覧表を作成した。

イ 指導案に評価規準を書くことにより、歯・口の健康づくりにおいて、「学級活動の1時間の授業で、児童に何を身につけさせたいか」という目標や実践内容などを、より具体的な形で示すことができた。

ウ 歯・口の健康(健康な生活)づくりについて理解を深め、今後の生活に生かすための授業づくりや学習過程の工夫を行った。

エ 養護教諭やゲストティーチャーと協力して授業を行うことにより、担任教師がより深い専門的な知識を得ることができるとともに、児童の疑問や質問にもその場で対応することができた。

② 学校行事への組み入れ

ア 歯磨き集会で歯科医師及び歯科衛生士を招き、正しい歯の磨き方を学習した。

イ 児童集会で、健康委員会が中心となり、「むし歯予防」について発表した。



学校歯科医による指導

(2) 児童の意識化・実践化を図る日常活動の工夫

① 「歯・口の健康づくり」(健康な生活)に関心をもたせる環境作り

ア 「歯ッピーコーナー」や「歯ッピールーム」を設け、「歯・口の健康づくり」に関する内容の掲示を実施した。

イ 「言葉の広場」のテーマに、学期に1回「歯・口の健康づくり」に関する内容を取り入れ、児童の関心を高めるようにした。

② 歯ッピータイム（特設タイム）の充実

ア 金曜日毎、朝の時間に、各クラスで「歯・口の健康づくり」に関する学習を行うとともに、学期に2回は、低中高学年グループで「歯・口の健康づくり」に関する内容について学習する「歯ッピー集会」を実施した。

イ 歯ッピータイムで行う「お口の体操」やブラッシング指導等の教材の開発を行った。



歯ッピータイムの様子

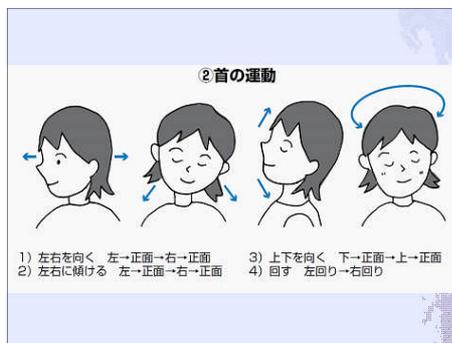
③ 日常の指導の工夫

ア 給食後の歯みがき指導を実施した。

イ 実践的な指導に結びつくように、児童の実態や発達段階に応じた歯みがきのDVDやお口の体操・早口言葉の電子教材・教具等の作成を行った。



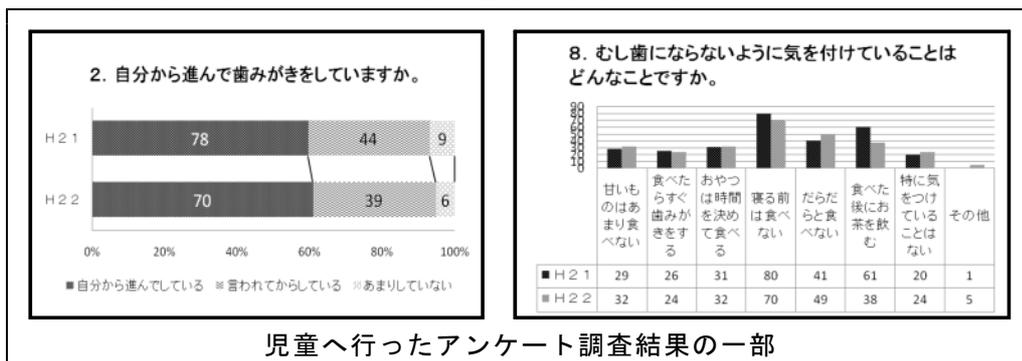
歯みがきDVDを利用した学習



電子教材例（お口の体操）

④ 児童及び保護者へのアンケートの実施

ア 児童及び保護者に対して「歯・口の健康づくり」（健康な生活）に関心をもたせる一つの手段として、16項目におけるアンケート調査を実施した。その内容については、学級懇談会や育友会の理事会等でお知らせし、「歯・口の健康づくり」の取り組みに対する共通認識を図った。



児童へ行ったアンケート調査結果の一部

(3) 児童・家庭・地域の意識化・実践化を図る連携の在り方を見いだす活動

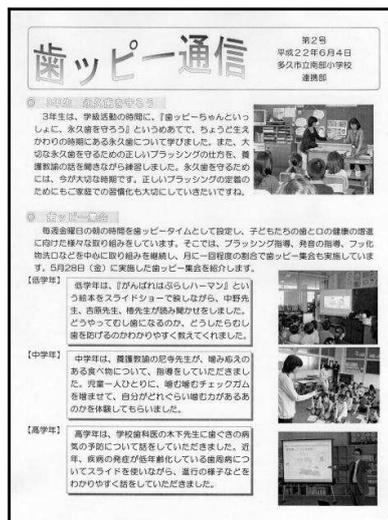
① 児童・家庭・地域の意識化を図る連携の工夫

ア 『歯ッピー通信』を発行し、「歯・口の健康づくりの学校での取り組み」「授業実践の取り組み」「歯ッピー集会」「アンケート結果・考察」など、児童の

学習の様子や取り組みについて、情報を発信し啓発した。実際の指導の内容や児童の活動の様子が伝わるように、画像や児童の感想を載せる等、紙面の構成を工夫した。また、歯・口の健康づくりの取り組みの広がりを感じてもらうために、専門家や諸機関との連携の様子を伝えるように心がけた。

イ 健康づくりに対する意識の向上のために、歯と口に関するだけでなく、食育や健康維持・増進に関わる内容も取り上げてホームページに掲載した。

ウ 6月の授業参観は、全学年で歯・口の健康づくりや食育など、児童の健康にスポットを当てた授業を実施した。また、同日に児童集会「歯と口の集会」（健康委員会）を実施し併せて参観してもらった。親と子が一緒に健康について考え語り合う一日になればという願いを持って取り組んだ。



歯ッピー通信 第2号

② 学校歯科校医や関係諸機関との連携

ア 夏季休業中の研修に歯科校医を招いて、歯と口に関わる南部小児童の実態や問題点、学校として研究の柱とする内容について示唆していただく研修会を実施した。児童のむし歯を減らすだけでなく、歯周病などの生活習慣病を減らすことやかむ力・顎の発達・姿勢などに視点を当てて研究を進めることを通して、歯・口の健康づくりを進めていくためには、児童の生活環境や生活習慣の見直しも併せて考えていくことの必要性も学ぶことができた。



【歯科医師会との連携】



【職員研修の様子】

イ 小城・多久地区歯科医師会の主催による『歯を守る会』を本校で開催した。歯科医師および歯科衛生士が、それぞれの学年の児童の発達段階に応じた内容と方法で指導をしていただいた。

ウ 歯・口の健康づくりと食生活は深い関わりがあり、これまでも食育の立場から養護教諭・栄養教諭や栄養職員との連携をとり実践等に取り組んだ。歯・口の健康づくりの取り組みを始めた昨年度からは、歯・口の健康づくりの年間計画に指導を位置づけて全学年で取り組んでいる。また、養護教諭は担任と連携し、歯・口の健康づくりの授業実践や歯ッピータイムなどの指導に当たってい

③ 育友会・保護者との連携

ア 育友会主催の教育講演会は、「子育てに役立つ話を聞きたい」ということで歯科校医にお話しいただいた。食品をかんだり飲み込んだりすることがうまくできない子供が増えている現状をとりあげ、家庭で気をつけることについて話していただいた。



学校栄養職員による講演会

イ 食育の大切さを保護者に理解してもらい広めていくために、育友会行事の給食試食

会と併せて食育講演会を行った。本校の学校栄養職員がスライドを使って、朝食の大切さや給食センターでの取り組みの一端を紹介した。

3 成果と課題

(1) 成果

① 児童の意識化・実践化を図る学習活動について

ア 歯・口の健康づくりに関する系統性のある目標一覧表を作成したことで、指導内容を確認することができた。

イ 歯・口の健康づくりについて理解を深め、今後の生活に生かすための授業づくりや学習過程の工夫をすることができた。効果的な資料の提示や、体験活動の導入など、生活を見直したり、実践意欲を高めたりする授業づくりができた。

② 児童の意識化・実践化を図る日常生活の工夫について

ア 校内環境の整備をすることにより、児童の興味・関心を高めることができた。

イ 歯ッピータイムや歯ッピー集会などの特設タイムで歯みがき指導やフッ化物洗口やお口の体操などの時間が確保でき、定着につながった。

ウ 児童集会活動を通して、児童が学んだことを発信できる場を設定できた。

③ 児童・家庭・地域の意識化・実践化を図る連携の在り方について（連携部）

ア 専門家や専門機関、栄養教諭、栄養職員、育友会等と協力して歯・口の健康づくりに取り組んできたことで、関係機関との連携を深めることができた。

イ 通信やホームページ、授業参観等を通して保護者や地域への発信ができた。

④ 取り組み全体を通しての成果

ア 21年度に比べて、22年度は完全歯の児童やう歯の治療済みの児童が増え、むし歯のある児童が減った。

イ 歯・口の健康づくりが、自分の生命そのものと関わりをもつことを理解し、健康管理と増進に取り組むきっかけとなった。

(2) 課題

① 学校以外の日常生活の場で、歯・口の健康について自ら考え実践できる自律的な態度の育成

② T TやG Tの効果的な活用と年間計画の位置づけ

③ 保護者への更なる啓発と連携のあり方

④ 本校における「歯・口の健康づくり」推進活動継続のために必要な内容の精選